

平成27年度 第2回栃木県公共事業評価委員会

日時：平成27年9月9日(水)14:00～

場所：栃木県庁本館6階 大会議室1

次 第

1 開 会

《議 題》

(審議案件)

2 栃木県県土整備部所管事業の再評価について・・・【資料1】

(1) 街路事業

ア 宇都宮都市計画道路3・4・109号 雀宮駅前線・・・【資料2-1】

イ 大田原都市計画道路3・4・2号 西那須野線外1路線・・・【資料2-2】

(2) 河川事業

ア 一級河川 小藪川・・・【資料3】

3 栃木県道路公社所管事業の再評価について・・・【資料4】

(1) 道路事業

ア 日光宇都宮道路・・・【資料5】

4 閉 会

再評価を実施する栃木県県土整備部所管事業の一覧表（審議案件）

No	事業区分	事業主体	路河川名等	箇所名	総事業費 (億円)	事業予定期間	再評価 分類 注1)
1	街路	栃木県	宇都宮都市計画道路 3・4・109号 雀宮駅前線	宇都宮市 雀の宮	17	H23～H31	才
2	街路	栃木県	大田原都市計画道路 3・4・2号 西那須野線外1路線	大田原市 中央	39	H21～H30	才
3	河川	栃木県	一級河川小藪川	鹿沼市 西鹿沼町	41	H9～H31	才

注1) 再評価分類 ア＝事業採択後一定期間を経過した時点で未着工の事業 イ＝事業採択後長期間が経過した時点で継続中の事業
ウ＝準備・計画段階で一定期間が経過している事業 エ＝再評価実施後一定期間が経過している事業
オ＝社会経済情勢の急激な変化、技術革新、事業計画の大幅な変更等により再評価の実施の必要が生じた事業
※詳細については、栃木県公共事業評価実施要領 第5－1を参照。

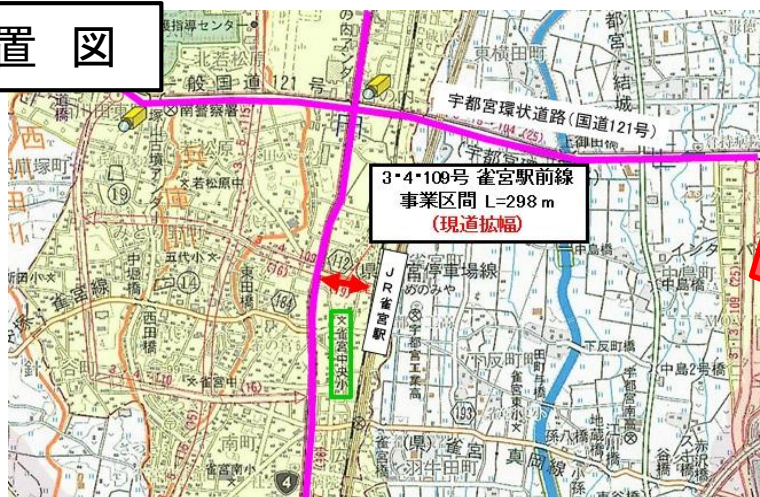
街路事業の再評価概要書

() は、当初計画時

街路事業の再評価概要書			番 号	1
() は、当初計画時			事業主体	栃 木 県
事業名	街路づくり事業		事業所管課	県土整備部 都市整備課
路線・河川名	宇都宮都市計画道路 3・4・109号 すずめのみやえきまえ 雀宮駅前線		事業箇所名	うつのみやし 宇都宮市 すずめのみや 雀の宮
事業区間	うつのみやし 宇都宮市 すずめのみや 雀の宮 1丁目～3丁目		事業延長	298m
H23年度事業化		S35年度都市計画決定 (H20年度変更)	H23年度用地着手	H24年度工事着手
事業期間	(H27) H23 ～ H31	事業 進 捗 状 況	基準年次：【平成27年度末時点】	
(うち用地補償費)	[12.8 (12.5)億円]		進 捗 率	
全体事業費	17.0 (17.0)億円		【うち用地補償費】 【 11.9 億円】 【93%】 既投資事業費 13.5 億円 79%	
事業概要		本都市計画道路は、JR宇都宮線雀宮駅を基点とし、国道4号を経て宇都宮市南西部の兵庫塚町に至る都市の骨格を形成する道路である。 本事業区間は、雀宮駅から国道4号までの298mの区間であるが、本路線沿線には商店や飲食店が建ち並び、また雀宮中央小学校の通学路に指定されていることから、鉄道利用者、買い物客、通勤通学者など歩行者自転車及び自動車の交通量が非常に多い区間である。 しかしながら、現況道路の幅員は6.5mと非常に狭い上、車線の区分も歩道もないため、特に朝夕の通勤通学時間帯には自動車と歩行者自転車が錯綜し、大変危険な状況にある。また国道4号との交差点部は渋滞が発生しており、主要渋滞箇所に位置づけられている。 さらに、宇都宮市は、宇都宮市都市計画マスタープランにおいて、当地区を「駅を核とした地域交流拠点」に位置づけ、東西自由通路、駅前広場、駅周辺道路の整備など、都市機能の強化に取り組んでおり、国においても国道4号の拡幅整備を実施中である。 このため栃木県は、本路線の現道拡幅と電線類地中化を実施することにより、安全安心な道路通行空間を創出し、円滑な通行を確保すると共に、交通結節機能の充実を図り、都市機能の強化を図るものである。		
事業を巡る社会経済情勢の変化、事業計画の大幅な変更 等				
都市計画法に基づく事業認可期間の延伸				
事業の投資効果		① 費用対効果分析結果 【総便益 (B)】 【総費用 (C)】 1) 事業全体 B/C＝ 1.1 18.9億円 17.0億円 2) 残事業 B/C＝ 5.2 16.1億円 3.1億円 ② 事業の整備効果等 ・安全安心な道路通行空間の創出 ・交通結節機能の強化 ・交通の円滑化 ・都市景観の向上と都市防災機能の強化		
事業の進捗状況等		① 事業の進捗状況 ・用地取得済の区間から順次工事を推進している。 ② 今後の事業進捗の見込み ・用地取得を推進し、平成31年の完成供用を図る。		
コスト縮減等		① コスト縮減方策 ・再生骨材、再生アスファルト合材を積極的に活用しコスト縮減 ② 代替案立案等の可能性 ・すでに大部分の用地を取得しており、本計画が最適である。		
事業の対応方針 (案)		現計画で事業を継続する。		

事業箇所(位置図・概要図)

位置図

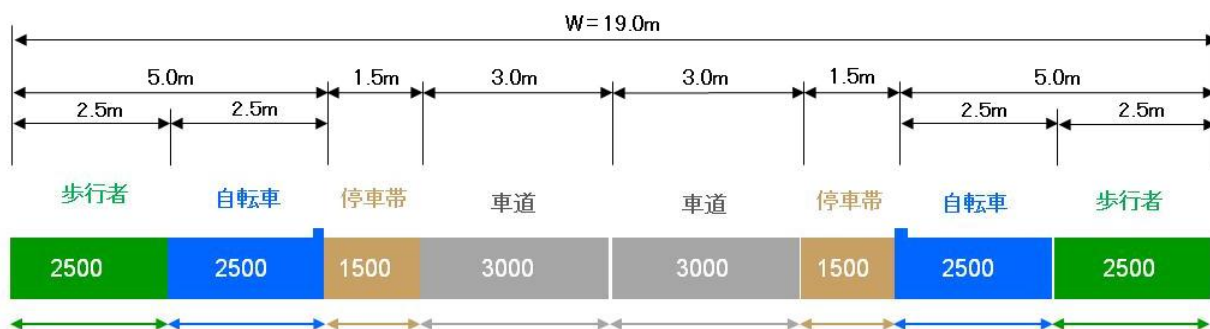


標準横断図

【現況】



【計画】



概要図





街路事業の再評価概要書

() は、当初計画時

街路事業の再評価概要書				番 号	2
() は、当初計画時				事業主体	栃 木 県
事業名	街路づくり事業		事業所管課	県土整備部 都市整備課	
路線・河川名	大田原都市計画道路 3・4・2号 にしなすのせん 西那須野線外1路線		事業箇所名	おおたわらし ちゅうおう 大田原市 中央	
事業区間	おおたわらししんとみちよう 大田原市新富町 ～ すみよしちよう 住吉町		事業延長	1, 002m	
H21年度事業化		S33年度都市計画決定 (H20年度変更)	H21年度用地着手		H24年度工事着手
事業期間	(H27) H21 ～ H30	事業 進 捗 状 況	基準年次：【平成27年度末時点】		
(うち用地補償費)	[26.1 (26.0)億円]		進 捗 率		
全体事業費	38.8 (40.0)億円		[99%]		
事業概要		[うち用地補償費] [26.0 億円] [99%] 既投資事業費 38.5 億円 99%			
本都市計画道路は、大田原市中心部を基点とし、隣接する西那須野地区の市街地を結ぶ、都市の骨格を形成する道路である。 本事業区間は、国道 461 号との交差点（かなどうろう金燈籠交差点）から市道との交差点（住吉町交差点）までの1, 002m区間であり、商店が密集し、近くには大田原小学校、大田原女子高校、大田原高校があることから、通勤通学時間帯には歩行者自転車及び自動車の交通量が多い区間である。 しかしながら、現況歩道は1. 5mと非常に狭い上、電柱もあることから、自動車と歩行者自転車が錯綜し、非常に危険な状況にある。また、金燈籠交差点はクランク形状となっており、渋滞が発生している。 さらに、周辺エリアは大田原市の中心市街地であることから、商業の活性化と市街地の改善を図るため、地元商店街等や市が協働して中心市街地活性化基本計画を策定して、ソフト・ハード様々な施策を展開しており、本事業区間はその中軸となる重要な路線である。 このため栃木県は、現道拡幅と電線類地中化を実施することにより、安心安全な道路通行空間を創出し、円滑な通行を確保すると共に、沿道商店街の賑わいを取り戻し、中心市街地活性化を支援するものである。					
事業を巡る社会経済情勢の変化、事業計画の大幅な変更 等					
都市計画法に基づく事業認可期間の延伸					
事業の投資効果					
① 費用対効果分析結果		【総便益 (B)】		【総費用 (C)】	
1) 事業全体 B/C= 1. 5		63. 4 億円		42. 0 億円	
2) 残 事 業 B/C= 5. 3		4. 8 億円		0. 9 億円	
② 事業の整備効果等					
・安全安心な道路通行空間の創出		・交通の円滑化			
・中心市街地活性化		・都市景観の向上と都市防災機能の強化			
事業の進捗状況等					
① 事業の進捗状況					
・平成25年12月に金燈籠交差点を供用開始。					
・用地取得済の区間から順次工事を推進している。					
② 今後の事業進捗の見込み					
・用地取得を推進し、平成30年の完成供用を図る。					
コスト縮減等					
① コスト縮減方策					
・再生骨材、再生アスファルト合材を積極的に活用しコスト縮減					
② 代替案立案等の可能性					
・すでに大部分の工事が完了予定であり、本計画が最適である。					
事業の対応方針 (案)		現計画で事業を継続する。			

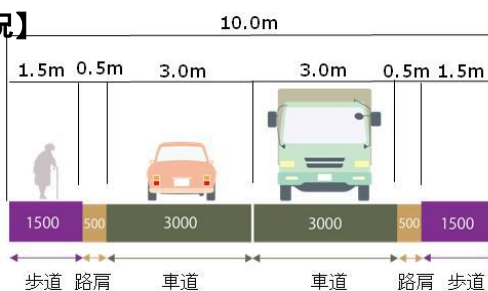
事業箇所(位置図・概要図)

位置図

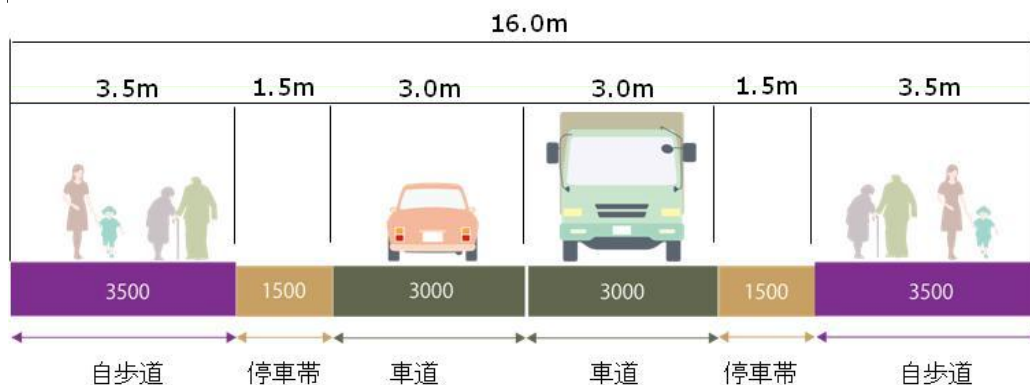


標準横断図

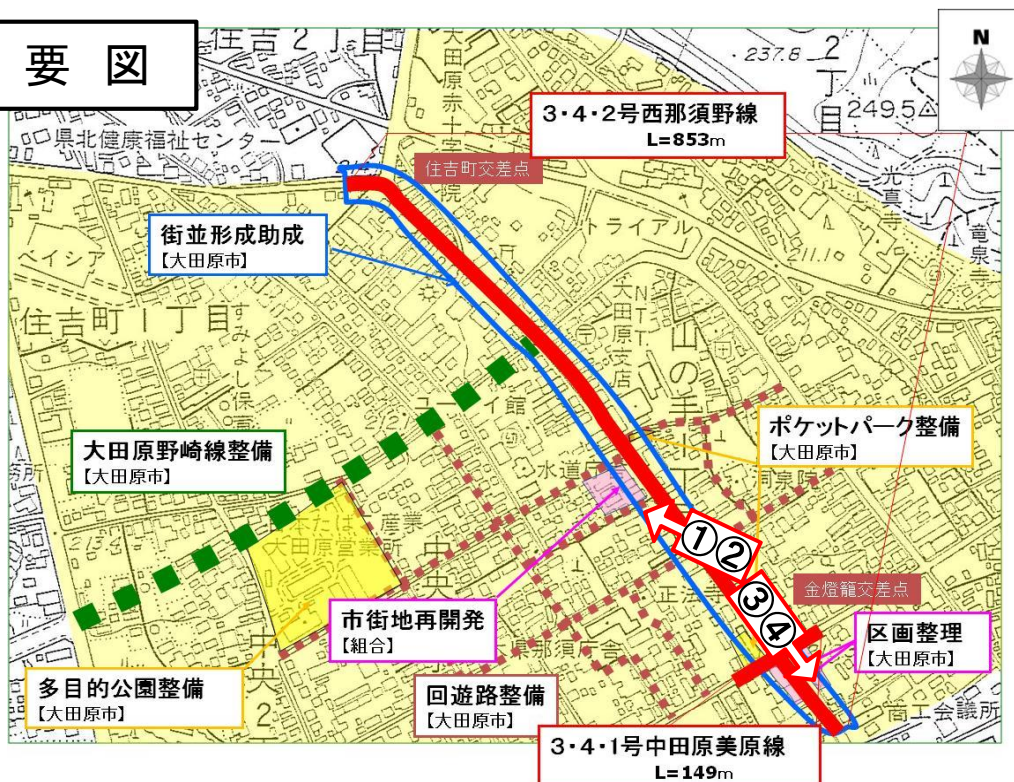
【現況】



【計画】



概要図



①整備前 渋滞状況



②整備後 トコトコ大田原周辺



③整備前 金燈籠交差点



④整備後 金燈籠交差点



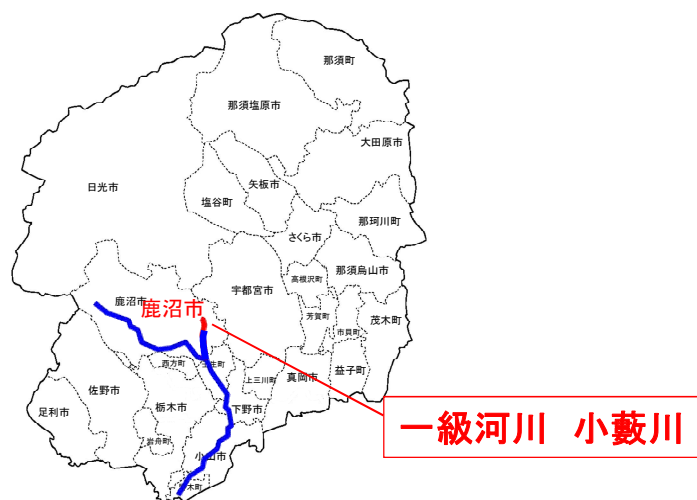
河川事業の再評価概要書

() は、前回再評価時

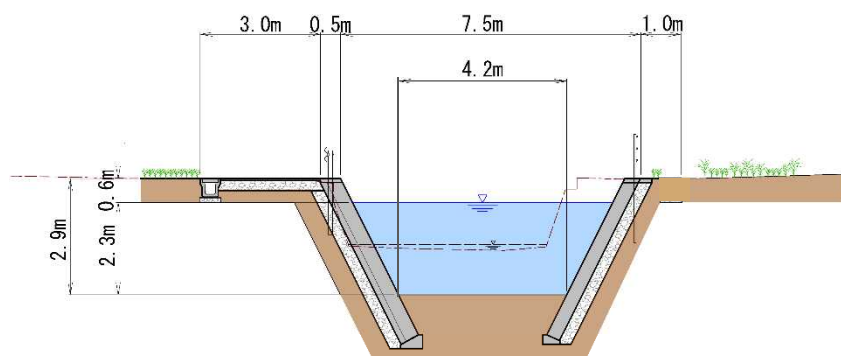
			番 号	1
			事業主体	栃 木 県
事業名	安全な川づくり事業		事業所管課	県土整備部 河川課
路線・河川名	一級河川 こやぶがわ 小藪川		事業箇所名	かぬまし 鹿沼市 にしかぬままち 西鹿沼町
事業区間	かぬましはなおかまち 鹿沼市花岡町地先～ かぬましにしかぬままち 鹿沼市西鹿沼町地先		事業延長	2, 010m
平成9年度事業化		平成9年度用地着手		平成9年度工事着手
事業期間	(H28) H9 ～ H31	事業 進捗 状況	基準年次：【平成27年度末時点】	
〔うち用地補償費〕	[8.6 (5.9) 億円]		進捗率	
全体事業費	40.6 (13.7) 億円		〔うち用地補償費〕	[4.9 億円] [57%]
			既投資事業費	11.8 億円 29%
事業概要				
小藪川は、鹿沼市街地の北西部に位置する岩山にその源を発し、鹿沼市の西部市街地を南下し、思川に合流する一級河川である。 計画区間は、屈曲が著しく、河川断面が狭小で流下能力が不足していることから、豪雨時には浸水被害が生じている。 そこで、河川断面の拡大及び調節池により、氾濫を防止し浸水被害の解消を図る。				
事業を巡る社会経済情勢の変化、事業計画の大幅な変更 等				
平成25年7月に発生した最大時間雨量94mmの豪雨(確率規模 約1/80)により、小藪川の上流域において大きな浸水被害が発生した。(浸水面積13.2ha、床上浸水45戸、床下浸水62戸) これを受け、栃木県と鹿沼市は平成25年7月洪水と同規模の豪雨が発生した際に、対象流域において床上浸水被害を概ね解消することを目標とする「100mm/h 安心プラン」を平成26年2月に策定した。 さらに、栃木県では小藪川の対象降雨を最新のデータで見直し、従来の計画よりも強い雨に対応することとした。 これに伴い、調節池の整備を新たに追加する等、河川改修事業の大幅な計画変更が必要となった。				
事業の投資効果				
① 費用対効果分析結果				
【総便益(B)】 【総費用(C)】				
1) 事業全体 B/C=10.0 415.8億円 41.5億円 [L=2,010m 区間]				
2) 残事業 B/C=8.8 231.0億円 26.2億円 [L=1,110m 区間]				
② 事業の整備効果等				
整備を図ることにより、宅地、道路や農地の浸水被害が解消される。				
事業の進捗状況等				
① 事業の進捗状況				
事業延長2,010mのうち、下流端から富士見橋上流までの900mの整備が完了している。				
② 今後の事業進捗の見込み				
平成31年度の完成を目指し、残る区間の用地買収と工事を迅速に進めていく。				
コスト縮減等				
① コスト縮減方策				
河川工事で発生した残土を他事業に流用し、工事費の縮減に努める。				
② 代替案立案等の可能性				
計画区間は市街地内で、大規模な遊水地や放水路等の適地がないことから、本計画(河川改修+調節池)が最適である。				
事業の対応方針(案)	本計画で事業を継続する。			

事業箇所(位置図、概要図)

位置図



標準断面図



計画規模	1 / 10
計画流量	27~47m ³ /s
現況流下能力	8 ~22m ³ /s
計画勾配	1 / 230

(渋染橋下流)

概要図

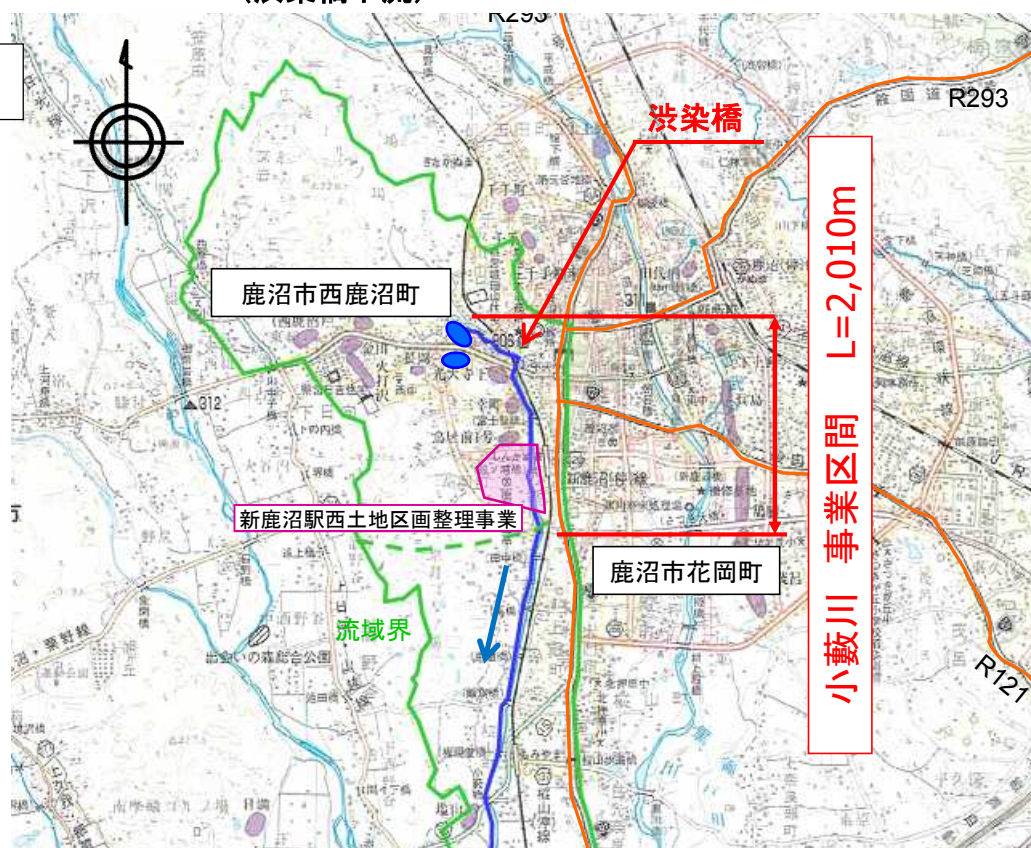


写真1
未改修区間(県道
鹿沼日光線上流
付近)の状況
(出水時)



写真2
未改修区間(県道
鹿沼日光線上流
付近)の状況
(平常時)



写真3
改修済区間(新鹿
沼駅西側)



再評価を実施する栃木県道路公社所管事業の一覧表(審議案件)

No	事業 区分	事業 主体	路河川名等	箇所名	総事業費 (億円)	事業予定期間	再評価 分類 注1)
1	道路	栃木県道路公社	日光宇都宮道路	日光市土沢インターチェンジ 宇都宮市(仮称)石那田インターチェンジ	34	H18～H30	イ

注1) 再評価分類 ア＝事業採択後一定期間を経過した時点で未着工の事業 イ＝事業採択後長期間が経過した時点で継続中の事業
ウ＝準備・計画段階で一定期間が経過している事業 エ＝再評価実施後一定期間が経過している事業
オ＝社会経済情勢の急激な変化、技術革新、事業計画の大幅な変更等により再評価の実施の必要が生じた事業

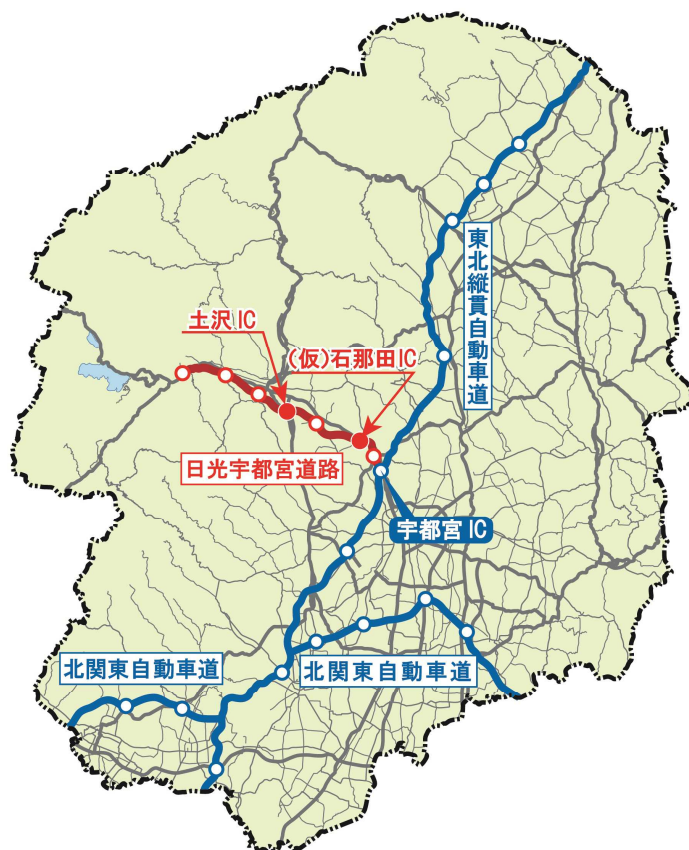
道路事業の再評価概要書

()は、当初計画時

道 路 事 業 の 再 評 価 概 要 書				番 号		1				
						事業主体		栃木県道路公社		
()は、当初計画時										
事 業 名		一般有料道路事業		事業所管課		栃木県道路公社 施設部				
路線・河川名		にっこううつのみやどうろ 日光宇都宮道路		事業箇所名		にっこうしどきわ 日光市土沢インターチェンジ うつのみやし 宇都宮市（仮称） いしなだ 石那田インターチェンジ				
事 業 区 間		にっこうしどきわ 日光市土沢地内 うつのみやしいしなだまち 宇都宮市石那田町地内		事 業 延 長		1,600m（2箇所）				
H18 年度事業化			—			H18 年度用地着手		H18 年度工事着手		
事 業 期 間		(H21) H18 年度～H30 年度		事 業 進 捗 状 況		基準年次：【平成 27 年度末時点】				
[うち用地補償費]		[5.2(4.1)億円]				進捗率				
全体事業費		33.5(25.0)億円				[うち用地補償費]		[3.0 億円]		[57%]
						既投資事業費		22.5 億円		67%
事 業 概 要										
日光宇都宮道路は、宇都宮市の宇都宮ICから、日光市の清滝ICへ至る延長30.7kmの栃木県道路公社が所管する一般有料道路（自動車専用道路）であり、東北自動車道と直結し、宇都宮市や首都圏等と国際観光都市日光を結ぶメインアクセス道路として、また、沿線地域の生活利便性の担う道路として重要な役割を担っている。 本道路は、日本道路公団（当時）によって建設され、S51年12月に宇都宮IC～日光IC間が、S56年10月に日光IC～清滝IC間が開通した。H17年6月に栃木県道路公社が管理を引継ぎ、高速道路並みの高いサービス水準の維持とともに、利便性向上のために通行料金の引き下げやETCの導入を実施してきた。 本事業は、更なる利便性の向上や地域のニーズへの対応のため、土沢IC及び（仮称）石那田IC（以下、石那田ICという。）を新設するものである。										
事業を巡る社会経済情勢の変化、事業計画の大幅な変更 等										
・県の財政健全化と自律的な財政運営に向けた取組「とちぎ未来開拓プログラム」（H21～H24）により、資金調達の担保が得られなかったことから石那田 IC の事業着手が遅延。										
事 業 の 投 資 効 果										
1 費用対効果分析結果				【総便益(B)】			【総費用(C)】			
(1) 事業全体 B／C＝ 1.2				54.9億円			47.3億円			
(2) 残 事 業 B／C＝ 1.8				37.0億円			20.7億円			
2 事業の整備効果等										
(1) 広域道路ネットワークの強化										
(2) 観光や産業活性化による地域振興の支援										
(3) 救急救命活動の支援										
(4) 防災・減災ネットワークの強化										
(5) 交通混雑の緩和										
(6) 安全で安心な通行の確保										
事 業 の 進 捗 状 況 等										
1 事業の進捗状況										
・土 沢 IC：H18 年度事業着手。H23 年 3 月 25 日供用開始。										
2 今後の事業進捗の見込み										
・石那田 IC については、用地取得を推進し、平成 31 年度の供用を図る。										
コ ス ト 縮 減 等										
1 コスト縮減方策										
・土 沢 IC：当初計画において、本道路上空を横断する IC 橋梁について桁高を抑えた橋梁形式とし、IC 本体盛土工費を約 1 億円縮減										
・石那田 IC：当初計画において、既設の徳次郎 IC（日光方面のみ出入り可能なハーフ型）を補完する IC 形式として宇都宮方面のみに出入りできるハーフ型としフルランプ型より約 18 億円縮減										
2 代替案立案等の可能性										
・石那田 IC：現計画位置・ハーフ IC 型式としている本計画が最適である。										
事業の対応方針(案)				現計画で事業を継続する。						

事業箇所（位置図・概要図）

位置図



概要図

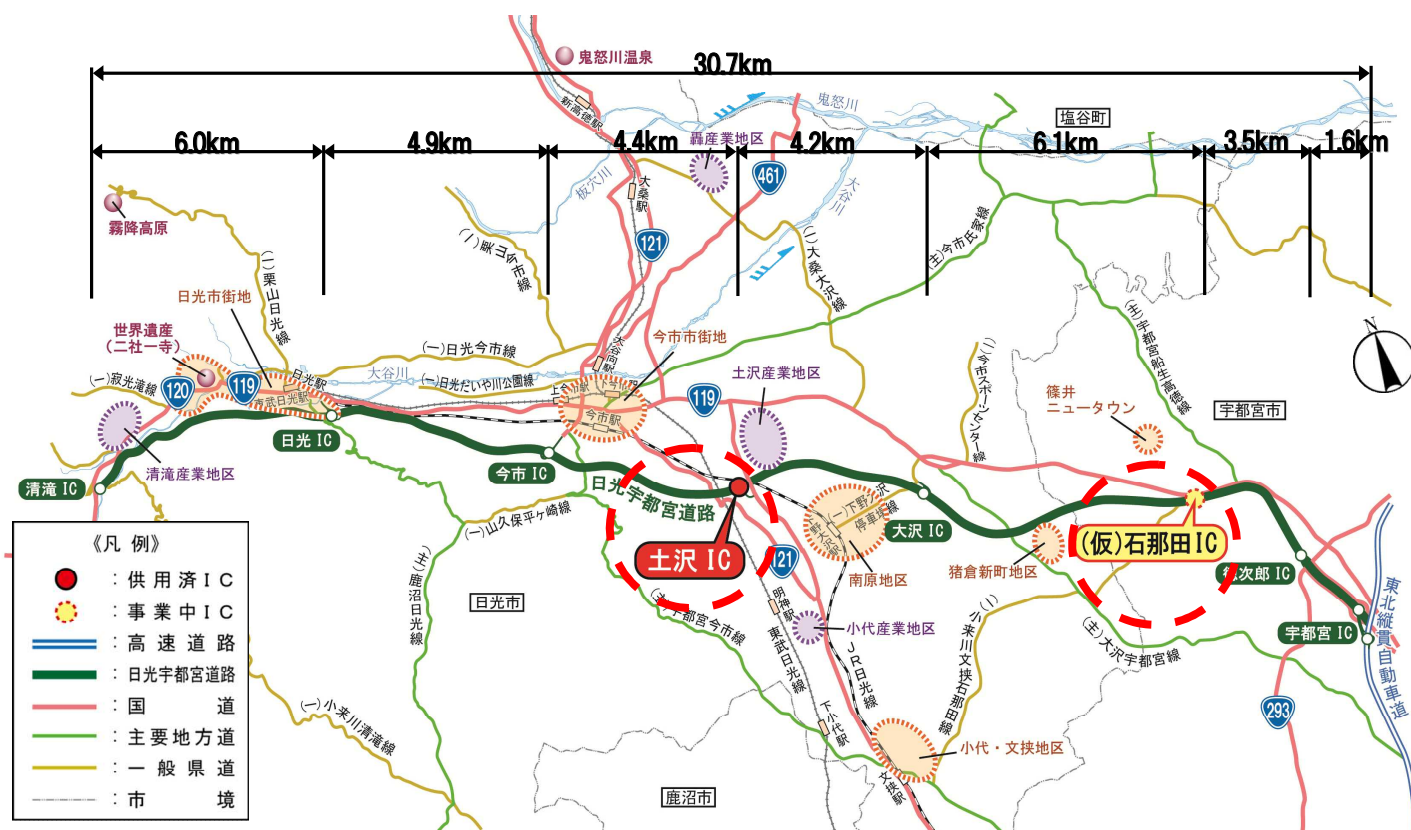




写真1:国道 119 号徳次郎交差点状況(整備前)



写真2:土沢 IC 状況(整備前)



写真3:土沢 IC 状況(整備後)